

6

六甲のさまざまな顔

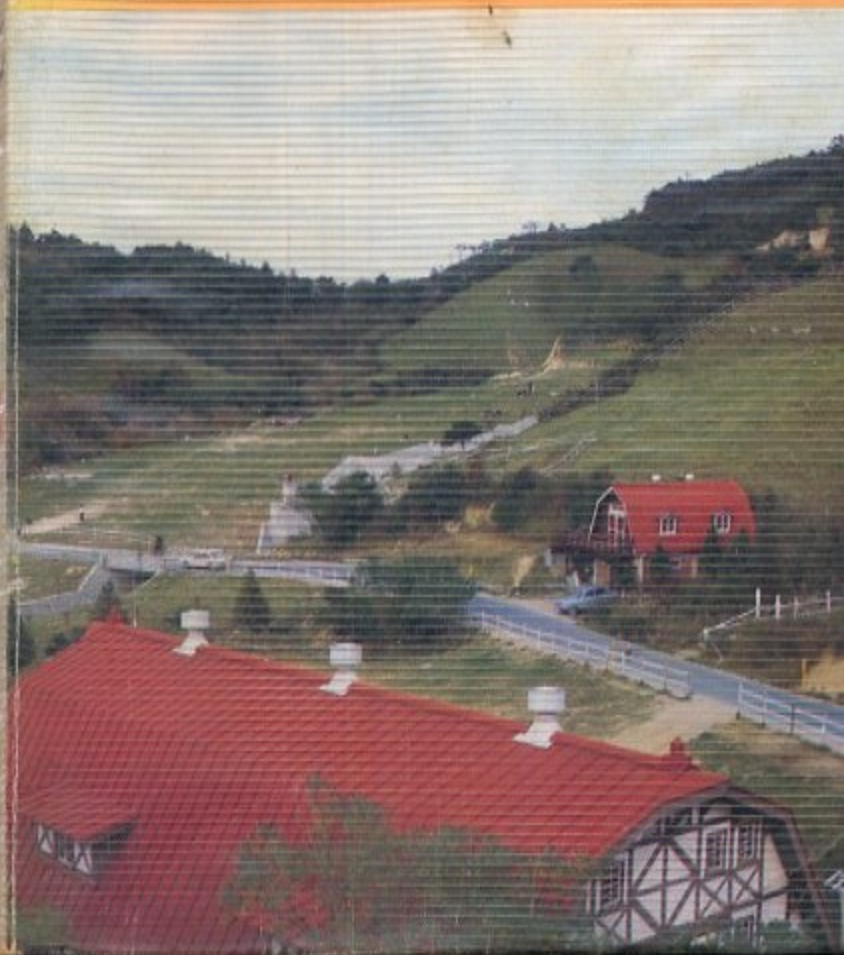
- ※**川・甲山からの道※** 甲山と仁川溪谷 尻川上流から鷺林寺へ
 ころころ岳への道 菅原園尾根から奥池まで 刺谷をさかのぼって
 奥池まで 鷺林寺・観音堂からの道 ガベの城尾根からの道 仁
 川源流から船坂峠・蓬萊峠へ
- ※**芦屋からの道※** 芦屋谷・奥池・鷺林寺・鷹尾山・荒地山・芦屋
 谷 ロックガーデン・ロックガーデン・金鳳山・保久良神社 ロ
 ックガーデン・最高峰・有馬 ロックガーデン・最高峰・東六甲
 駅走路
- ※**住吉からの道※** 住吉谷・最高峰から有馬へ 石切道・小川谷・
 蓬山峠 大丹地嶺谷から有馬温泉へ 西山谷から記念碑台へ
- ※**六甲山上※** 東六甲山上めぐり 西六甲山上めぐり 油コブシ道
 から六甲越え道へ アイスロードと地獄谷西尾根 裏六甲地獄
 谷からアイスロード・記念碑台
- ※**裏六甲※** 有馬温泉・六甲山上から紅葉谷・有馬温泉へ 湯桶谷
 山・灰形山・落葉山から有馬へ 有馬四十八滝めぐり 船坂谷・
 石ノ木峠から奥池へ 蓬萊峠・座頭谷から櫻方峠へ
- ※**摩耶山※** 香谷・モリス・摩耶山頂・袖谷 布引から市方原へ
 布引から大判道・摩耶山・香谷道へ トエンティクロス・徳川道
 から摩耶山 袖谷からフェール道 大狗塚から摩耶山・大狗道
 へ
- ※**再渡山※** 市方原から櫻方原・モリス・平野谷へ 地蔵谷と黒岩
 尾根 乃木山から教育植物園・森林植物園へ 石崎花谷から石崎
 花山へ 菊水山から鶴巻山・再渡山へ
- ※**西神戸の青山※** 針伏山から清原アルプス縦走 高取山 白川峠
 から丸山峠上断崖へ 山法稲寺・太山寺へ
- ※**武庫川流域※** 鎌倉峠から有馬温泉へ 尾子谷湖行 武田尾から
 土助野木池へ 千鈞阿木池から三田へ
- ※**あなたの卒業証書※** 全六甲山脈縦走 六甲の岩場めぐり 徳川
 道

2326-380701-4902 Y440

六甲山ハイキング

大西雄一 著

Sards Series 6



43 全六甲山脈縦走

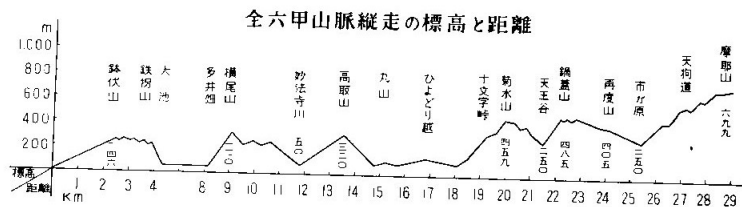
地図(5万) 須磨, 神戸, 大阪西北部

〔健脚家の耐久鍛練向き 歩く距離 56K〕

塩屋・須磨浦公園 2.5K 鉢伏山旗振茶屋 9.5K 萩の寺
 1.5K 高取山頂 3.5K 神電鶴越駅 3K 菊水山頂 2.5K 鍋蓋山頂
 30分 40分 1時間 50分
 1.5K 再度山大竜寺 1.5K 市ガ原 3K 摩耶山頂 6K 西六
 20分 15分 1時間半 1時間10分
 甲記念碑台 6K 最高峰一軒茶屋 1.2K 鳥居茶屋 1.2K 縦走
 1時間10分 10分 10分
 路分岐点 1K 水無山 2K 船坂峠 7K 塩尾寺 3K 阪急宝
 15分 30分 1時間50分 30分
 塚駅

＜注＞ 以上は実歩行時間で845分, すなわち14時間5分である。
 食事回数4回, 1回当たり10分として40分, その他小休止通算30分として休憩時間の計70分。合計所要時間15時間15分となる。まずこの程度が普通の健脚家の標準であろう。若干の記録実例を別表に記しておいたから参考とされたい。

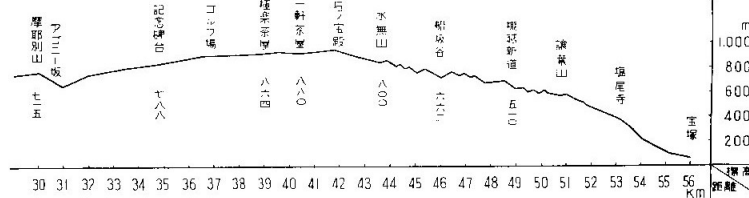
六甲山の各コースについて説明をしてきたが, これでご承知いただいたように, 一口に六甲といっても東は宝塚から西は塩屋, 須磨に至るまで, 10^{km}ないし15^{km}の幅をもって延々56^{km}の長さにわたって山脈が続いているので, ずいぶんと広くかつ変化にとんでいる。いずれのコースをとっても, たっぷりと1日ばかりでハイキングが



楽しめるのである。その数多い六甲登山の総仕上げに, 全六甲山脈の縦走計画を登場させよう。この塩屋～宝塚の山稜線のひとつひとつを忠実に登り下りして, これを1日のうちに踏破しようとするもので, 歩く距離56^{km}, 登る高さの累計2,000^m, 所要時間15～17時間の強行軍である。

いかがですか, やってみませんか。これが成功できると初めて, あなたは登山家として標準点がもらえ, 六甲登山の卒業証書がもらえるのです。その体力と意志力とでは, 日本アルプスへ登っても大丈夫, ということになるのです。全縦走をやったよ……といえば, 一応敬意を表され, 山仲間にもいれてもらえるというもので, リーダー格となる資格のひとつでもあります。ではさっそく次の日曜日にでも……と簡単におっしゃっても, そうは問屋が卸しません。実はなかなか大変な事業なんです。まあいたいてい人は, 何回かの失敗の後に, あるいは何年かの後に, やっと大願成就するのが普通です。これは大きな山行の計画や実践のそれにも似た, 物心両面にわたる綿密, 周到な準備が必要であり, 燃える闘志と体力が要求される。それだけにまた愉快なすばらしい計画なのです。20歳台の元気な若い人でも多くは落伍するが, 50歳台でもむずかしいことはなく, 現に筆者も50歳台ですが楽しくやりました。ぜひ試みて下さい。ではこの計画の内容について気のついた点をお話ししましょう。

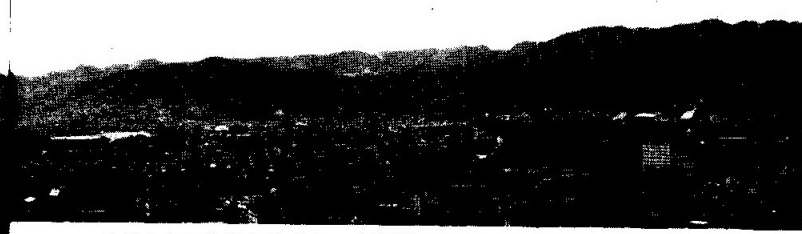
出発点 東の宝塚, 西の塩屋, 須磨のいずれから出発するかは, 成功に重要な関係がある。後に述べるように長時間かかるので早朝出発の必要があるが, 住居や交通機関などの都合もあるのでいずれを出発点とされてもよいが, コースの状況からすればなるべく西から出て東で終わる方が得策であろう。その理由は, 東からは 1. 宝





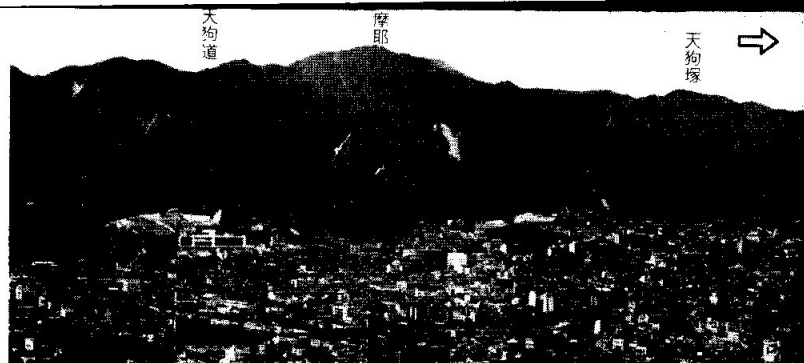
塚から最高峰までは標高差 900 位の登りで、すくなくとも 4 時間以上かかり、まず最初の行程でかなり疲れてしまうこと。2. 夜になる部分が高取山以西の、登り下りがはげしくやせ尾根やはげ山や分岐路の多い小道が多いことなどで、危険かつ迷いやすいこと。西からは、日の高いうちに変化のはげしい山稜線のコースを終了し、摩耶（まや）山あたりで夕方になるが、後の 27.4% の前半 14.4% は六甲山上部の平坦（へいたん）な道であり、後半の 13% 東六甲縦走路は部分的には起伏はあるにしても、とにかく山頂から平地へ下るので、長途の疲労した身体には負担（ふたん）が軽いこと、などである。もっとも、この東六甲縦走路も小道で分岐路も多く山が深いので、迷いこんだら難物である。ことに途中で逃げこむ方法がないので、一度進みだしたら最後までがんばり通さねばならない。普通は西の塩屋または須磨から始めるのが順コースで、東の宝塚からの逆コースといわれている。以下順コースを標準に説明をする。

行程 山稜線を忠実にたどるので、登り下りがはげしくひんぱんであるため、単に地図上で平面的にはかった距離と、実歩行距離



とはかなり相違があるが、実距離は少なくとも約 56% はあろう。これを 1 日中に踏破するためかなり強行軍となるが、天候（六甲の天気は変わりやすい）と、疲労その他の理由で途中で挫折（ざせつ）しても、安全に処理できるのもこのコースの特徴である。まず第 1 の関門は菊水山、第 2 関門は摩耶山天狗（てんぐ）道、第 3 関門は摩耶山頂、第 4 関門は六甲ケーブル駅——これまでは随時いかようにも落伍者の処理ができるが、六甲ケーブル駅以東は 20% 以上の夜の山道を完遂する以外に手ががないので、ここでリーダーは前途の見透しをたて、責任のある決意をしなければならない。中途半端に何とかなるだろう……程度では困ったことになる。たいていの場合、最初 10 人で出発したパーティも、ここで全員中止敗退するか、2 人か 3 人の強者だけで敢行し、他はケーブルかロープウェーで町へおろすか、になるのが常である。この縦走は個々の道順を充分に知りつくしていなくては駄目で、現地でウロウロするようでは成功おぼつかない。そのためには、事前に何度かの綿密な実地踏査を積み重ねて、自信を深めて初めて実施できる。特に夜道の部分においては





なおさらである。

時期 上述のようにコースを熟知しさえすればよいかというと、それだけでは困難で、季節の選び方が重要なカギとなる。夏期は日が長く夜道がまぬがれてよいように思われるが、高温多湿のため苦しく疲れるので、到底不可能である。早春か晩秋が最も適当で、できれば月夜を選びたい。

所要時間 20歳代の最も元気な若者で15～16時間、40歳ぐらいでは17～18時間、あたりがまず標準だろう。もっとも記録作りの目的で全コースを韋駄天（いだてん）走りしたある若者の8時間35分というものもあるが、これは別問題であろう。別表にくわしく記したから、参考とされたい。したがって出発は朝6時か遅くとも7時とすべきで、途中食事以外はほとんど休みなしのぶっ通しで歩いても、順調にいった宝塚に着くのが夜の8時か9時ごろになるだろう。

装備 クツは底の厚い革（かわ）の登山靴がよい（ビョウ靴は重いのでビブラム底が軽くてよい）。キャラバンシューズは爪先を痛める場合があり、運動靴やこれに類する程度の履物は不適當であ



る。爪先やかかとに石鹼を塗っておくと靴ずれが防げる。なるべく装備は軽くしたほうがよいが、防寒衣や懐中電灯はぜひ必要。食糧は行動食2食程度でよく、なるべく途中の食堂などを利用したほうが荷が軽くて得策。食事は4度か5度に分け簡易に腹七分目ぐらいで行動すること。疲労の際はチョコレートやレモンなどは回復に効果があるから携行した方がよからう。水場に乏しいところが多いのでテルモス、水筒の類は忘れぬように。以上のほか一般的な登山者としての注意を守ってもらうことはもちろんだが、要するに 1. 事前に充分の調査研究をすること。 2. パーティの質をそろえること。 3. 烈々たる闘志と聰明（そうめい）な判断とが必要であること、などの条件を忘れないように。

コースの概要とその要点 出発点の鉢伏山は、塩屋からでも須磨からでもどちらでもよいが、とにかく山頂に登り尾根通しに縦走して須磨アルプスから白川街道の妙法寺に一たんおいて、高取山を西背面から登る。頂上を下ったあたりには茶店が数軒あるから第1回の朝食をとればよい。汐見茶屋の手前から丸山へ下る。丸山から菊



菊水山は最初の関門である。というのは、須磨の背山を元気にまかせて無思慮に行動している連中は、まずここでへばってしまう。屹立(きつりつ)した山頂への急峻(きゅうしゅん)な棒道を敬遠して谷筋を街道へ出、さらに高座(こうざ)から再度山(ふたたびさん)の極楽谷をつめて七三峠から再度山へぬける手があるが、これは明らかにカンニングで、これをやっては、たとえ宝塚まで行

でも、私は全縦走をいたしました——と大きな顔していえないのである。苦しくとも菊水山頂をきわめ、有馬街道へ急降下してまた直ちに鍋蓋山（なべがたやま）へ急登しなければならない。鍋蓋山から再度山へのパノラマ道を経て、山門から市ガ原（いちがはら）へ一気に下り、市ガ原の桜茶屋でホッと一息つく。ここで第2の食事をとるとよい。

これからが**第2の関門**である。トエンティクロス、徳川道を経て西六甲へ通じる谷筋の道の方が楽なので、ついカンニングしたいところだが、これも絶対駄目。男の子なら、急峻な標高差500mの天

狗道の登りをがんばらねばならない。たしかに、疲れた身体にはこの天狗道はつらい。この難関を突破してやっと摩耶山頂につけば、もう夕方である。早朝から休みなしですでに25,6%は歩いているが、これでやっと全行程の半分か、と思えば疲れがどっと出てくる。ロープウェーが目の前から発着しているとなれば、たいていの人は、ここで「もうやめた」と欲得なしで敗退してしまう。これが**第3の関門**である。ここが辛抱のしどころで、「何くそ!」と頑張ること。しかし正直にいうと、ここで思案する程度なら前途の見込みなしで、せいぜいがんばっても六甲ケーブルあたりで中止した方が賢明であろう。このロープウェー駅の食堂で第3の食事をとる。

摩耶別山(まやべっさん)から**アゴニー坂**をくだり、神戸市立のユースセンターの横から山稜を**西六甲**へ向かうと、ドライブウェーの舗装路に出る。ここから東六甲最高峰の鳥居茶屋までの約10%は坦々(たんたん)たる広い道なので楽だが、**西六甲の記念碑台**あたりで最後の重要な判断をしなければならない。ここが**第4の関門**である。ここからなら六甲ケーブルで市街へおりられるが、これから先は約20%の山道をいやが応でも自分の2本の足で歩かねばならない。途中で、もう駄目だ、と弱音をはいてもどうしようもないので、前進か敗退か、の決断の最後のチャンスとなる。十中八、九はここであきらめるはめとなるが、それでよいので、無思慮な空気の強がり禁物で、すこしでも不安があればいさぎよく思い切るべきだ。

最高峰下の一軒茶屋をすぎて**鳥居茶屋**につくころは、もう夜の幕は降り星がきらめいているだろう。第4の食事を取り、夜道の支度をする。防寒衣を着こみ、ライトをつけ、靴のひもをしめ直し、いよいよ最後のコースに出発だ。鳥居茶屋をすこし行ってから**東六甲縦走路**の細道にはいる。このコースは小さな登り下りの起伏が多く、細い山道で石ころや木の根が多く、そのうえブッシュにおおわれて屋でも歩きにくい。さらに分岐路が随所にあり、迷いこんだら大変なので、よく注意し合って行動することが必要だ。ことにパーティの隊列は乱れないように絶対に固まって動くことが肝心である。とにかく足もとに気をつけて、たがいに声をかけ合いながら行進する。

塩尾寺(えんべいじ)に到着すればもう占めたもので、あとは宝塚まで重い足を引きずること30~40分で、武庫川にかかる大橋に出る。

橋上にたつて川面に映る旅館、料亭のはなやかな灯をみ、来し方の漆黒の山容をふりかえるとき「やったぞ!!」の感激が胸にこみあげてくる。これであなたも一人前の山男になったのだ。

ある登山者の縦走記録

地 名	距 離 K	20歳台 4人 10月28日			50歳前後 3人 3月23日			21歳男単独行 12月11日		
		到着 時刻 時分	実働 分	休み 分	到着 時刻 時分	実働 分	休み 分	到着 時刻 時分	実働 分	休み 分
塩 屋		7:35			6:05			6:45		
旗振茶屋	2.5	8:06	31	8	6:40	35	15	7:00	15	
萩の寺	9.5	11:00	166	15	10:05	190	(食)	7:50	50	
高取山	1.5	11:45	30	15	10:40	35	30	8:10	20	10
鶴越駅	3.5	12:40	40		11:45	35	(食)	8:50	30	(食)
菊水山頂	3.0	13:50	70	25	12:45	60	15	9:45	55	5
鍋蓋山頂	2.5	15:00	45	(食)	14:10	70	(食)	10:15	25	
再度山大 竜寺	1.5	15:20	20		14:50	40		10:25	10	
市ガ原	1.5	15:31	11		15:05	15	15	10:30	5	
摩耶山頂	3.0	17:05	94	15	16:50	90	40	11:35	65	
記念碑台	6.0	18:28	68	(食)	18:40	70	(食)	12:15	40	30
一軒茶屋	6.0	19:25	57	5	19:50	70		13:40	55	(食)
鳥居茶屋	1.2	19:38	8		220:00	10	5			
縦走路分 岐点	1.2	19:48	8		20:20	15		↓		
水無山	1.0	19:58	10		220:35	15				
船坂峠	2.0	20:15	15		21:05	30		14:15	35	
塩尾寺	7.0	22:00	105		223:05	120		15:05	50	
宝塚駅	3.0	22:30	28		23:40	35		15:20	15	
合 計	55.9	14:55	13:26	1:29	17:35	15:40	1:45	8:35	7:50	0:45

これからの人々におねがい

六甲山はこのように、まだ日本人の間に山歩きを楽しむ習慣のなかった時代に、心ある外国の人たちの手によって、開発され、指導された。

そしてやがて市民大衆の、何ら邪心なき、ただ山を愛し自然と親しむことに喜びを感じる純粋な気持ちに護り育てられて成長してきた。六甲の登山史は、全く市民の健全な日常生活と自然との密接な愛情の結びつきの歴史である。ここに六甲の異色ある誕生と成長があり、もしそうでなかったならば、おそらく当世随所でみられるような、単なる俗悪な観光のみを目的とした遊山本位の山に墮していたかも知れない。それだけに、これからの六甲を再開発するわれわれの責任の重大さをひしひしと感じさせられる。また、観光に、あるいはハイキングにここを訪れる人々も、尊い先輩の気持ちを汲んで行動していただきたい。

特にお願いしたいことは、弁当殻、空カン、紙くずなどで汚染しないようにしてほしいことです。眺望や休憩によい場所ほどひどい状態です。それらはリュックにいれて持ち帰るとか、穴を掘って埋めるとかしてください。これが、山へ行くもののエチケットであり常識であります。

われわれの六甲山がいつまでも明るい、健康的な、レクリエーションの場であるようにご協力下さい。

おねがいます。

著者略歴

明治44年神戸市に生まる。

昭和7年神戸高商卒。

日本山岳会会員。稜線山岳会、神戸市山岳部顧問。

神戸市局長を経て、六甲オリエンタルホテル代表

取締役、団体役員。

六甲については50年間にわたって登りつづける。

著 書 「絵のある随筆」

「はなしの歳時記」

「火の見やぐら」

六甲山ハイキング

Guide Series 6

©昭和38年7月1日 第1版第1刷発行

昭和45年7月10日 第2版第1刷発行

昭和47年7月20日 第2版第3刷発行

定価 440円

著 者 大 西 雄 一

発行者 矢 部 良 策

印刷所 岩岡印刷株式会社

発 行 所 株式会社 創 元 社

(〒530) 大阪市北区樋上町45

TEL 大阪 (363)2531 (代)

東京営業所(〒162)東京都新宿区山吹町77

TEL 東京 (269)1051

落丁・乱丁はおとりかえいたします。(団栗製本)

2326-380701-4202